

2012年2月21日 公の精神でつながるコミュニティー「一志会」の第8回例会が開催されました。



公私の活動を通じて社会に少しでも貢献しようという「公の精神」を共有する企業経営者による会員制”コミュニティー”である「一志会」の第8回例会を、2月21日に開催しました。



今回は、ソニー常務として”ソニーらしさ”のものの作りで活躍され、現在は一柳と一緒にベンチャー支援に情熱を燃やしている蓑宮武夫(みのさんファーム代表取締役、TNP パートナーズ取締役会長)をゲストにお迎えし、いつものように和やかな雰囲気の中で進められました。

蓑宮氏は、ソニーの創生期に井深氏に憧れて入社して以来、井深氏、盛田氏、大賀氏に直接指導を受けて、長年にわたり生産現場で画期的新製品の開発・生産の先頭に立ってきた方です。23年前に『ソニーで期待される人間像は「勇気」と「好奇心」をもった龍馬のような人物だ』とのトップの話を聞いて、「ソニー龍馬会」を設立し、坂本龍馬の研究を続けており、龍馬の生き方から多くのことを学んで後輩達を育てています。

蓑宮氏には、「ビジネスマン龍馬ー大きな仕事ができる男とは?」などの著書があります。

講話では、『志ある経営ー混迷の時代!! ソニーの経験と龍馬の生き方に学ぶ』と題して、時代の流れを大きく俯瞰した上で、坂本龍馬について「大きなスケールと発想力の人」「世界を相手にした視座での《夢の実現》その一点に賭けた人物」であると、その先見性と行動力を高く評価しました。そして、かつてのソニーにはイノベーションとマーケティングに強みを発揮し、「失敗が許される土壌、あきらめない土壌」が息づいていたことを、様々な事例を挙げて話され、閉塞感が漂う今こそ、新たなことにチャレンジすることが求められており、それを評価する風土が重要であることを強調されました。現在はそのような熱い想いでベンチャー支援に全力を傾けている蓑宮氏の志と情熱に、メンバーは圧倒される程の深い感銘を受けました。



メンバースピーチでは、メンバーから経営課題の材料を提供して貰い、参加者で率直な意見を交わして切磋琢磨し、各自の経営に活かそうということで、今回はコミュニティーの得井常務から、同業2社と経営統合していく中での今後の事業展開とその課題についてお話を頂きました。これに対して、メンバーからは、合併の実効を上げるポイントは何かを巡り、合併の経験談などを踏まえた内容の濃い意見が積極的に交わされ、お互いに学ぶところが多かったと思います。



また、会の半ばでは、新規メンバーの自己紹介やメンバーからの近況報告などが行われるとともに、懇談タイムでの交流も大いに盛り上がりしました。